

立花：シスメックスの立花でございます。2025年3月期第3四半期の決算概要についてご説明いたします。

エグゼクティブサマリー



2025年3月期 第3四半期実績

大幅な増収増益、売上高・営業利益・四半期利益ともに過去最高

前年同期比 売上高：112.4%、営業利益：124.2%、四半期利益：123.7%

- 試薬売上の伸長や新興国の成長機会の獲得により、全地域で増収を達成
- 販管費の適切なコントロールや円安の効果もあり、営業利益は大幅増益

通期業績見通し

ビジネスは堅調に推移しており、通期業績の達成を見込む

- 先進国における製品ポートフォリオの拡充による持続的な成長に加え、新興国の高い成長需要を獲得し、増収を継続
- 原価率の改善や販管費、研究開発費のコントロールにより、増益を見込む

5

スライドの5ページをご覧ください。

エグゼクティブサマリーです。第2四半期に引き続き、第3四半期の業績も非常に好調であり、売上高、営業利益、四半期利益のいずれも記載の通り、大幅な増収増益で、過去最高の実績となりました。

外部環境としては、インフレをはじめいろいろな向かい風はあるものの、当社の事業は三つの成長戦略を軸に想定通り進捗しており、全地域で増収を実現しています。

費用面では、積極的に投資すべきところと、効率化すべきところのメリハリをつけて取り組んでおり、計画通りコントロールできています。

直近では、トランプ大統領就任後、世界の動きが大きくなってきています。いろいろと不透明な要素があり、今後も注視し、環境変化に応じて対応していきますが、これまで報道されている今後の変化の可能性等につきましては、当社事業への影響は軽微であり、ビジネスチャンスは引き続き堅調に継続すると見ております。

通期業績見通しにつきましても、計画通り達成を見込んでおります。

決算総括（対前年）



(億円)	2025年3月期3Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	3,668.6	100%	3,265.2	100%	112.4%
売上原価	1,680.5	45.8%	1,547.5	47.4%	108.6%
販売費及び一般管理費	1,099.7	30.0%	958.4	29.4%	114.7%
研究開発費	225.4	6.1%	232.1	7.1%	97.1%
その他の営業損益	10.4	0.3%	15.0	0.5%	69.6%
営業利益	673.4	18.4%	542.1	16.6%	124.2%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	426.1	11.6%	344.6	10.6%	123.7%



- **売上高** : 試薬売上が継続して伸長するなど、全地域で増収、過去最高を達成
- **営業利益** : 粗利益の増加に加え円安の効果もあり、+24.2%と大幅増益、過去最高を達成
 - ✓ **為替の影響** : 売上高 +149.8億円、販管費 +40.8億円、営業利益 +101.1億円
 - ✓ **前年同期為替レート適用の場合** : 売上高 107.8%、販管費 110.5%、営業利益 105.6%
- **四半期利益** : +23.7%の増益 為替差損益: △24.0億円 (前年同期比△25.9億円)

7

7 ページをご覧ください。

決算総括です。売上高は 3,668 億円、前期比 112.4%と大きく伸長しました。全地域で増収となり、過去最高を達成しました。営業利益は 673 億円、為替の追い風もあり、前期比 124.2%と大きく伸長しました。

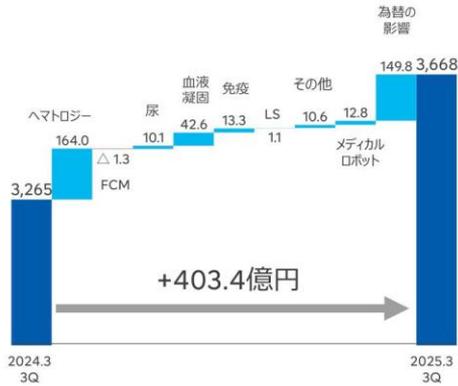
なお、為替は右下に記載の通り、各通貨とも円安に推移し、その影響は下段に記載の通り、売上高、販管費、営業利益のいずれも増加となっています。為替の影響を除いても、売上高は 107.8%、営業利益は 105.6%の増収増益となっています。

四半期利益は、為替差損益の影響がありましたが、23.7%の増益となっております。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



事業別・分野別売上高
(億円)



COVID-19関連検査（ライフサイエンスと免疫を含む）

2025.3期3Q：16.7億円（国内のみ）
参考 2024.3期3Q：20.3億円（国内のみ）

ヘマトロジー・血液凝固・免疫分野が伸長した他、メディカルロボット事業も導入台数、症例数の増加により大幅伸長

(億円)	2025年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	3,668.6	100.0%	112.4%	107.8%
ヘマトロジー	2,212.3	60.3%	113.3%	108.4%
FCM	23.8	0.6%	99.0%	94.6%
尿	302.3	8.2%	108.3%	103.6%
血液凝固	572.6	15.6%	112.6%	108.4%
免疫	183.5	5.0%	111.2%	108.1%
生化学	26.5	0.7%	106.9%	104.0%
ライフサイエンス	159.0	4.3%	105.2%	100.7%
その他	155.4	4.2%	111.7%	107.0%
ダイアグノスティクス事業	3,635.7	99.1%	112.0%	107.4%
メディカルロボット事業	32.9	0.9%	163.9%	163.9%

8

8 ページをご覧ください。

事業別・分野別の売上高です。右から2列目の円ベースを見ていただくと、全分野で高い伸長率となっています。その右の為替影響を除く対前年同期比でも、ハイライトした主要分野で高い伸長率となっています。

ヘマトロジー分野は、XRシリーズの導入に加え、直販化した地域や新興国で大きく伸長しました。血液凝固分野は、新たな販売エリアである欧米での試薬販売も伸びており、全地域で試薬売上が好調に推移しています。また、免疫分野も全地域で伸長しております。メディカルロボット事業は後ほどご説明いたしますが、ビジネスは好調に推移しており、大幅な増収となりました。

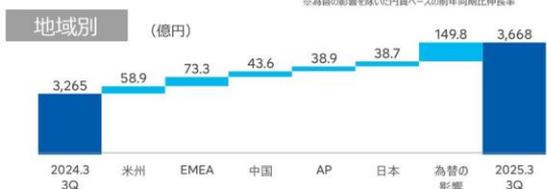
売上高の増減要因（地域別・品目別）



全地域増収、機器売上は対前年同等まで回復、試薬売上は好調に推移し2桁伸長を継続

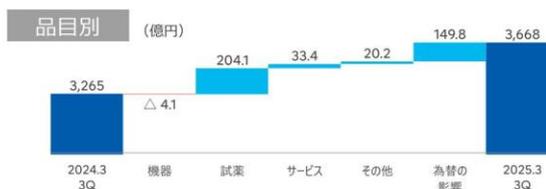
(億円)	2025年3月期3Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	3,668.6	100.0%	112.4%	107.8% ^(*)
米州	964.2	26.3%	113.0%	106.2%
EMEA	1,028.7	28.0%	112.8%	106.3%
中国	820.0	22.3%	111.6%	106.0%
AP	383.7	10.5%	115.4%	111.7% ^(*)
日本	471.9	12.9%	108.9%	-
機器	712.1	19.4%	103.7%	99.4% ^(*)
試薬	2,291.4	62.5%	114.7%	110.2% ^(*)
サービス	505.8	13.8%	112.9%	107.5% ^(*)
その他	159.1	4.3%	119.2%	115.1% ^(*)

※為替の影響を除いた円ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因

米州	・ヘマトロジー、尿分野の伸長に加え、アルツハイマー検査も伸長し、 増収を達成
EMEA	・直販効果や血液凝固の顧客獲得などにより、ヘマトロジー・尿・血液凝固分野で試薬が伸長し、 増収を達成
中国	・機器売上が回復基調へ、試薬はヘマトロジー、血液凝固分野を中心に伸長し、 増収を達成
AP	・インドをはじめ各国で好調に推移し、 2桁伸長、増収を達成
日本	・ダイアグノスティクス事業はヘマトロジー・血液凝固分野が好調に推移。メディカルロボット事業も伸長し、 増収を達成



9

9 ページをご覧ください。

地域別・品目別の売上高増減です。地域別の売上高は、現地通貨ベースで全ての地域で増収となりました。特に AP は、インドをはじめとした新興国戦略が順調に進捗し、上期に続き 2 桁伸長となりました。日本もヘマトロジー分野の更新需要およびメディカルロボット事業の伸長により 8.9% 増と高い成長を示しました。

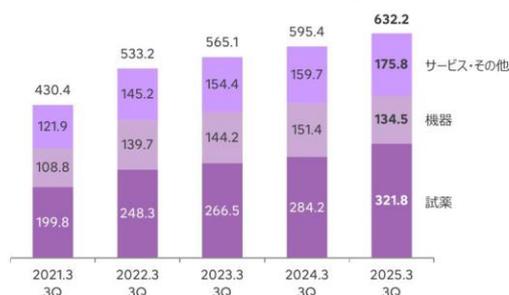
品目別では、試薬が増収し、ヘマトロジー・尿・血液凝固・免疫分野の試薬は為替の影響を除いても増収となり、ビジネスは好調に推移しております。機器は、上期における米州の納品遅延や中国の血液凝固機器の出荷遅れの影響がありますが、3Q 累計で前年同等まで回復しています。

米州（地域別）



(Million USD)	2025年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	632.2	595.4	106.2%	113.0%
機器	134.5	151.4	88.9%	94.8%
試薬	321.8	284.2	113.2%	120.5%
サービス・その他	175.8	159.7	110.1%	117.1%

売上高推移 (Million USD)



ヘマトロジー分野の機器売上は対前年同等まで回復、
試薬売上は継続して2桁伸長を達成し、増収

● 機器

✓ 前年度好調だった尿分野の反動に加え、上期の北米での納品遅延による影響を受け減収も、回復基調

● 試薬

✓ ヘマトロジーや尿分野の機器設置台数増加に伴い、2桁伸長を達成し、増収

✓ 血液凝固分野も伸長、アミロイドβ検査試薬*も、堅調に推移

*4.9 Million USD

10

10 ページをご覧ください。

米州の状況です。米州の売上は6.2%の増収となり、好調に推移しました。機器は前年度に尿分野が好調であったことの反動や、上期の北米での納品遅延により減収ですが、ヘマトロジー分野の機器売上は対前年同等まで回復しております。

試薬は、ヘマトロジーや尿分野における機器設置台数の増加や、中南米の伸長により、現地通貨ベースで2桁増収となりました。

直接販売を開始した血液凝固分野の試薬売上も着実に伸長しておりますし、免疫分野のアミロイドβ検査試薬も堅調に推移し、約5ミリオンドルの規模に成長しました。

参考：米州の機器売上構成比（2025年3月期3Q）



連結に占める米州の機器売上構成比は5-6%程度であり、関税引き上げがあった場合でも影響は軽微
サプライチェーン全体での検討を進め、影響をより低減していく



11

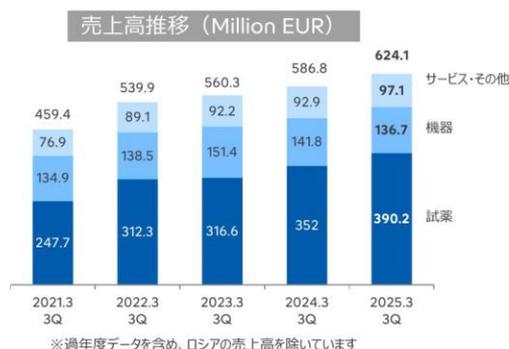
11 ページをご覧ください。

米州における機器売上構成比です。米国において、今後関税の引き上げの可能性について懸念されていますが、当社の米州における機器・試薬等の売上構成比はこの図で示す通りです。試薬のほとんどは現地生産していますので対象外ですが、日本から出荷している機器は約 21%、それが連結売上高に占める割合は 5-6%程度ですので、ウエイトは高くありません。したがって、仮に関税がかかったとしても影響は軽微と考えています。

EMEA (地域別)



(Million EUR)	2025年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	624.1	586.8	106.3%	112.8%
機器	136.7	141.8	96.3%	102.1%
試薬	390.2	352.0	110.8%	117.7%
サービス・その他	97.1	92.9	104.5%	111.0%



継続的なヘマトロジーの伸長に加え、尿・血液凝固分野の試薬売上が+20%以上伸長し、増収

● 機器

- ✓ヘマトロジー分野は伸長も、イタリアの直接販売切り替えによる尿分野の一時的な減少などにより、減収
- ✓直販エリアの伸長およびOEM契約の効果などにより、血液凝固分野における当社の顧客は着実に増加

● 試薬

- ✓ヘマトロジー分野において、直販化したサウジアラビアなどで好調に推移
- ✓機器設置台数増加によりスペインなどで尿分野が伸長した他、血液凝固分野のOEM契約による販売も好調に推移し、増収

12

12 ページをご覧ください。

EMEA の状況です。EMEA の売上は 6.3% の増収となり、好調に推移しました。

機器の減収はイタリアの直販切り替えによる尿分野の一時的な減収が影響していますが、ヘマトロジー分野は XR シリーズの効果もあり、増収しています。

試薬は各分野とも好調であり、2 桁増収を達成しました。

中国 (地域別)



(Million CNY)	2025年3月期 3Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	3,888.5	3,668.5	106.0%	111.6%
機器	458.9	496.7	92.4%	97.5%
試薬	2,920.4	2,714.2	107.6%	113.4%
サービス・その他	509.1	457.5	111.3%	116.6%



機器売上は、1Qの減収影響が残るも、3Q単四半期では2桁伸長を達成。試薬売上も好調に推移し、増収

● 機器

- ✓XR™シリーズや現地生産化したヘマトロジー分野ローエンドモデルおよび尿分野の販売が好調に推移
- ✓免疫分野は増収を達成、現地生産を開始した血液凝固分野は上位市場への設置が順調に推移

● 試薬

- ✓3級病院を中心に外来患者数の増加、機器設置台数の増加もあり、ヘマトロジー・血液凝固分野が伸長し、増収
- ✓免疫分野は集中購買の影響もあり、微増

13

13 ページをご覧ください。

中国の状況です。中国の売上は6%の増収となり、好調に推移しました。

機器は1Qがスローだったことの影響があり、減収となりましたが、3Q単四半期では2桁増収となり、回復基調です。XRシリーズや現地生産化したローエンドモデルが好調なヘマトロジー分野と、尿分野が順調に伸長しました。

試薬は、外来患者数の増加や、ロックダウン生産品の導入効果による機器設置台数の増加などでヘマトロジーや血液凝固分野が伸長し、増収を達成しました。

中国における検体検査市況



外来患者は引き続き増加基調、下位市場を対象とした製品で新規顧客の獲得を進める
政府調達方針の厳格化や集中購買の広がりはあるも、現地調達の検討やコストダウンの対応を進める

政府調達方針の厳格化

- 国内調達部品の構成比率設定に向けた意見公募
- 中国産製品への価格などの優遇措置の拡大

当社の対応

- ✓ 機器の現地生産品目の拡大
- ✓ 現地での部品調達に向け、サプライチェーン調査・評価を実施し、現地サプライヤ選定を推進

集中購買の広がり（免疫分野試薬）

- 感染症など16項目について25省で適用開始
- 腫瘍マーカー・甲状腺など新たに24項目の入札完了

当社の対応

- ✓ 直接販売・サービスの検討
- ✓ 試薬の自社化による原価率低減
- ✓ 新規顧客獲得によるシェア拡大

14

14 ページをご覧ください。

中国における検体検査分野の市況です。当社の試薬売上が好調な背景として、外来患者数の増加やヘマトロジーのローエンドモデル製品による新規顧客の獲得などが挙げられます。今後も検査数の増加が見込まれ、試薬売上も増加していくと考えています。

一方で、政府調達方針の厳格化や集中購買の広がりなど各種政策が展開されています。

左側に記載の通り、政府調達方針の厳格化については、従来のロックダウン方式での現地生産ではなく、中国製の部品調達比率を設定し、それを満たせば入札価格を優遇するという方針案で、昨年末にその実現に向けた意見公募が行われました。当社としては、以前からその可能性も想定して、

中国製部品のサプライヤー調査の実施ならびに選定を進めてきており、方針が制定された場合には、最短で対応できるよう準備を進めております。

右側の集中購買については、一昨年12月に25省で行われた免疫分野における感染症項目などの入札価格に基づく実際の購買が、1年遅れの昨年12月から25省全省で開始されました。さらに、昨年12月には腫瘍マーカーを中心とする24項目の新たな入札が開始されるなど広がりを見せています。

当社としましては、価格の下落に備え、直販化の検討や試薬の自社化などによる原価率低減などを進めています。また、項目拡大を進め、新規顧客を獲得することでシェアを拡大し、販売単価が下落した分を補ってまいります。

AP (地域別)



※ロシア売上高を含むデータへ変更

(億円)	2025年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	383.7	332.6	115.4% (111.7%)
機器	81.9	73.0	112.2%
試薬	259.0	221.6	116.9%
サービス・その他	42.7	38.0	112.3%

*()は為替の影響を除いた場合



医療インフラへの投資需要は高く、インド、オーストラリアで+30%を超えて伸長するなど、各国好調に推移し、2桁伸長を達成

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野は、インドやオーストラリアを中心に伸長。免疫分野は、フィリピンやインドネシアなどの東南アジアを中心に好調に推移し、増収

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野は、東南アジアなどで大幅伸長。尿、血液凝固分野もタイなどで好調に推移し、全分野で2桁伸長

メディカルロボット事業

- ✓ シンガポールおよびマレーシアの病院にて計3台導入
- ✓ 初症例も実施され、堅調に手術数は増加

15

15 ページをご覧ください。

AP の状況です。AP の売上は 15.4% 増と高い 2 桁増収となりました。引き続き各国政府の医療インフラ投資が継続しており、機器・試薬ともに好調です。30% を超える大きな伸長となったインドやオーストラリアを筆頭に、フィリピン、インドネシア、タイなども非常に好調です。

また、メディカルロボット事業も海外展開の第 1 弾として、AP 地域で本格的に開始し、シンガポールおよびマレーシアの病院で計 3 台の導入を実現しました。

日本（地域別）



(億円)	2025年3月期 3Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	471.9	433.1	108.9%
ダイアグノスティクス事業	439.3	413.0	106.4%
機器	85.2	65.1	130.8%
試薬	281.9	277.7	101.5%
サービス・その他	72.1	70.1	102.9%
メディカルロボット事業	32.5	20.1	162.0%

ヘマトロジー・血液凝固分野が機器・試薬ともに伸長。メディカルロボット事業も好調に推移し、2桁伸長を達成

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、XRシリーズの販売が好調に推移し、対前年+80%超と大幅増収

● 試薬

- ✓ 機器設置台数の増加によるヘマトロジー分野の増収に加え、血液凝固分野の採用項目拡大により伸長し、増収

メディカルロボット事業

- ✓ 3Qで新たに7台導入（今年度：16台）、累計台数：71台
- ✓ 導入台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上が増加

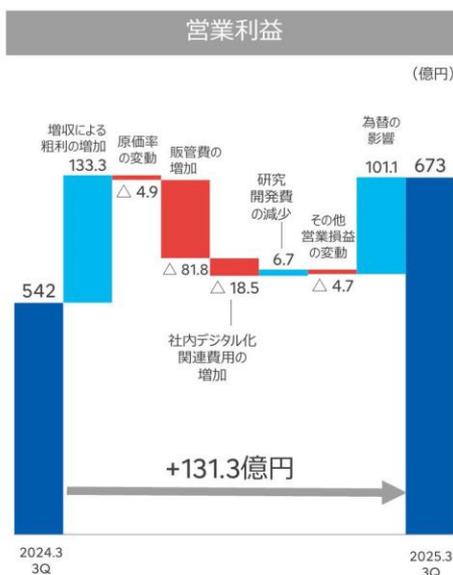


16

次の16ページをご覧ください。

日本の状況です。日本の売上は8.9%の増収となり、好調です。ダイアグノスティクス事業はXRシリーズの販売が好調なヘマトロジーや血液凝固分野が機器・試薬ともに好調で増収となりました。メディカルロボット事業は設置台数および症例数の着実な増加により、サービスや鉗子などの消耗品の売上も増加し、62%の増収となりました。

営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：+133.3億円
- 原価率の変動影響：△4.9億円（0.1pt悪化）
 - ✓ 改善要因：プロダクトミックス 0.8pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.2pt、輸送費 0.3pt、製品等の原価 0.3pt
- 販売管理費の増減影響：△81.8億円
 - ✓ 労務費：規模拡大に伴う人員増や単価増などによる増加：約49億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約25億円
- 社内デジタル化関連費用の増減影響：△18.5億円
- 研究開発費の増減影響：+6.7億円
 - ✓ 継続した製品開発投資や薬事関連費用があるも、テーマの精査などにより減少
- その他営業損益の増減影響：△4.7億円
- 為替の影響：+101.1億円

17

17 ページをご覧ください。

営業利益の増減要因です。記載のコメントは為替の影響を除くもので、プラスマイナスの主な要因は記載の通りですが、一部補足いたします。

原価率は、前年同期に対して 0.1 ポイントの悪化でした。ヘマトロジー試薬売上の伸長によるプロダクトミックスの改善がありました。インフレや人員増によるサービスコストの増加および輸送費の増加は、上半期と同水準で継続しています。製品等の原価率は 0.3 ポイントの影響がありましたが、第 2 四半期の一時的な急激な円高への変動影響を受けたもので、実質的に原価率が悪化しているわけではありません。

販売管理費のうち、労務費の増加は約 49 億円で、人員増と人件費の単価アップによるものであります。

社内デジタル関連費用は、前年同期に対して 18.5 億円の増加となっています。

研究開発費については、将来に向けた取り組みとして重要であり、中長期目線の継続投資を行う一方、テーマの精査を行ってきた効果も出てきており、対前年で 6.7 億円の減少となりました。

第3四半期の進捗（対計画）



売上高

通期進捗率 71.9%

- 地域や分野別の強弱はあるものの、グループ連結としては、計画どおりの実績を達成
- ヘマトロジー分野の試薬伸長を軸に成長を継続

原価率

- 試薬売上が好調に推移し、計画を若干超える改善を達成

販管費等

- 必要な投資は継続
- 円安影響を受けるも、販管費と研究開発費はほぼ計画内に収めた

営業利益

通期進捗率 74.8%

- 売上伸長、原価率の改善により、計画を若干上回る実績を達成

18

18 ページをご覧ください。

第 3 四半期の進捗についてです。これ以前のページでは前年同期との比較でご説明してきましたが、このページでは通期業績予想に対する進捗状況をご説明いたします。

売上高につきましては、通期進捗率 71.9%と計画通り順調に推移しております。

原価率も計画を上回る改善となっています。

販管費等についても、円安による増加影響はありますが、販管費と研究開発費を合わせてコントロールしており、ほぼ計画内に収めております。

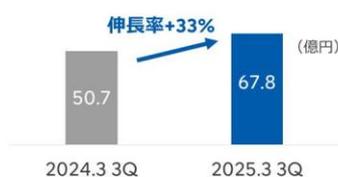
営業利益につきましては、通期進捗率 74.8%で、計画を若干上回るペースで進捗しております。

新興国戦略



高成長が期待されるインドにおいて、生産体制構築が順調に進む

インド売上高推移



新生産拠点稼働に向け、機器・試薬の薬事申請中

- ✓ 機器：現地調達部品を用いた生産準備を完了
- ✓ 試薬：次年度に向けた生産準備を完了し、試薬生産能力を大幅に拡大



インド新生産拠点



稼働に向けたトレーニングを実施

20

このセクションでは成長戦略の進捗と取り組みについてご説明いたします。

20 ページをご覧ください。

新興国戦略について、今回は成長が著しいインドについてお話いたします。インドの売上高はここ数年高い伸長が続いており、この 3Q も対前年 33%の増収でした。通期では中計 3 年目の目標である 100 億円に迫る勢いです。

当社では拡大し続けるインドの需要を積極的に取り組むべく、2019 年に直接販売を開始。その後 2023 年 4 月以降、新工場の建設に着手し、機器と試薬の両方の生産機能を持つ当社の海外工場の中で最大規模の工場として、いよいよこの 4 月に稼働する予定です。

機器については、Make in India 政策への対応として、インド製の部品を一部活用した機器生産を開始します。既に現地調達した部品を組み込んだ機器を生産し、薬事申請を行いました。

試薬については既に量産準備を完了しましたので、今後の需要増にしっかり対応できる体制となります。

既存事業の強化



EMEAや韓国などでBloodScience※の導入が進むなど、新たな取り組みが着実に進展

血液凝固分野におけるOEM契約の進展

- ✓ EMEA：ドイツを中心に他社攻略が好調、さらにデンマークで大型案件を獲得するなど、ビジネス環境は良好、BloodScienceも好評価
- ✓ 米州：北米、中南米とも順調に受注が増加、今後伸長していく見通し

BloodScience
※ヘマトロジー分野と血液凝固分野の融合



XRシリーズの導入

- ✓ 日本：旧製品の更新が順調、大手検査センターで稼働開始
- ✓ EMEA、AP、中国：導入済み、顧客評価は高く、買換えおよび新規顧客獲得を推進中
- ✓ 米州：XRシリーズ導入に向け準備が進む。周辺モジュールBT-50が好評



■ BloodScience導入事例（韓国）

中国における現地生産化の推進

- ✓ 免疫分野のHISCL™-5000ロックダウン製品の販売開始
- ✓ 主要ラインナップの準備完了

21

21 ページをご覧ください。

既存事業の強化についてです。一つ目は血液凝固分野です。昨年4月に血液凝固分野のSiemens社とのOEM契約が開始され、当社は欧米でシスメックスブランドの機器・試薬を直接販売することができるようになりました。それに合わせて、当社が最も強みとするヘマトロジー分野と血液凝固分野を融合させた当社独自のBlood Scienceというシステム製品を投入し、競争優位性を高めており、EMEAをはじめ韓国でも導入されてきています。

EMEAでは、ドイツを中心に他社攻略が好調、デンマークでも大型案件を獲得するなど、ビジネス環境は良好であります。米州では、時間を要しましたが、北米、中南米ともに受注が増加しており、今後伸長していく見通しです。

二つ目はヘマトロジーのXRシリーズです。特に日本では、旧製品のサポート中止に伴う切り替えが順調に進み、大幅な伸長を記録しています。大手検査センターでは、世界最大規模のXRシステムを導入いただき、稼働を開始しました。

EMEA、AP、中国も導入済みで、顧客評価も高く、更なる伸長が期待されます。

米州においては、XRシリーズの導入に向けて準備を進めております。先行して発売している周辺モジュールBT-50は高評価を受けております。

三つ目は、中国の機器現地生産です。免疫分野の HISCL-5000 の現地生産品を 1 月より販売開始しました。これにより、主要ラインアップの国産化が完了し、現状の国産優遇政策に対して一通り対応できたこととなります。

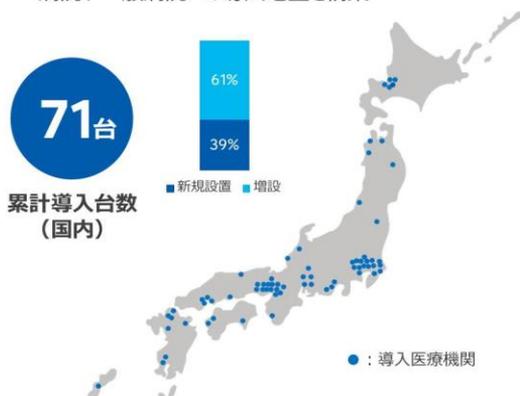
新規事業の拡大（メディカルロボット事業：日本）



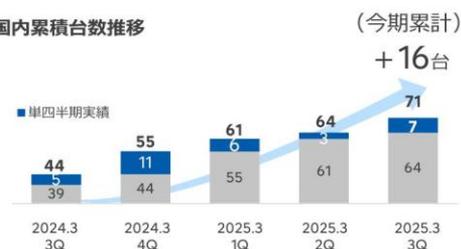
着実に導入台数・症例数が伸長し、ビジネス環境は良好

hinotori™の導入状況

- ✓ 全国の大学病院、基幹病院への導入が着実に進み、系列病院や一般病院への導入地盤を構築



国内累積台数推移



国内累積手術数推移



22

22 ページをご覧ください。

メディカルロボット事業の進捗状況です。日本国内においては全国の大学病院や基幹病院への導入は着実に進んでおり、3Q で新たに 7 台、累計導入台数は 71 台となりました。症例数も 3Q だけで 1,340 症例、累計では 8,000 症例近くまでになりました。

新規事業の拡大（メディカルロボット事業：海外）



シンガポールで海外初の導入・手術を実施するなど、海外市場への取り組みも着実に進捗

hinotoriの導入状況

- ✓ シンガポールへの海外初導入・初症例に加え、マレーシアの病院2施設へ導入完了



マレーシア（2施設）



シンガポール（1施設） ※引用：施設Webサイト



今後のグローバル展開計画

2026年3月期：欧州市場参入予定

2027年3月期：米国市場参入予定



グローバル累計導入台数

23

23 ページをご覧ください。

海外への展開は、シンガポールにおいて昨年11月に海外での初症例を完了しました。その後、マレーシアでも2施設に導入、初症例も報告され、海外導入台数は3台、国内合わせたグローバル導入台数は今年度累計19台、累積導入台数は74台となりました。欧州市場への導入に向けても現在薬事申請準備を進めております。

サステナビリティピックアップ



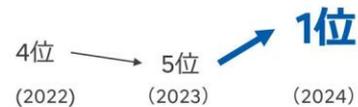
「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に9年連続選定

- ✓ 「Health Care Equipment & Supplies（ヘルスケア機器）」セクターにおいて、最高位を獲得

■主な評価ポイント

経済ガバナンス	調達方針、税務方針の改定など
環境	再エネ導入・エネルギー使用量の削減など

■順位の推移*ヘルスケア機器



ヘルスケア業界初、水平リサイクル容器を採用した試薬の販売開始

- ✓ 2025年1月から国内で販売開始
- ✓ 新品の素材のみで製造したバージン樹脂の資源消費を抑制および使用済み容器の廃棄処分に伴うCO₂排出の削減を目指す
- ✓ さらに原料価格上昇時への備えに対応

■試薬容器の水平リサイクル



24

24 ページをご覧ください。

サステナビリティトピックスです。シスメックスはダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックスに9年連続で選定されました。今回は、ヘルスケア機器セクターにおいて最高位を獲得することができました。

また、今年1月からはヘルスケア業界では初となる、水平リサイクル容器を採用した試薬を日本国内で販売開始しています。

ニュースリリース・トピックス (2024年10月～2025年1月)



既存事業の強化

- 「HISCL™ TARC試薬」、重症薬疹診断の血清バイオマーカーとして国内初の保険適用（日本）

新規事業の拡大

- 手術支援ロボット「hinotoriサージカルロボットシステム」、シンガポールで海外初の導入および手術を実施（AP）
- シスメックスとJ-TEC、再生細胞医療における製造機能の高度化に向けた基本合意（日本）

サステナビリティ

- 「Global 100」（世界で最も持続可能な企業100社）に6回目の選出
- 性的マイノリティに関する取り組み指標「PRIDE指標」で最高位ゴールドを3年連続受賞（日本）

25

25 ページをご覧ください。

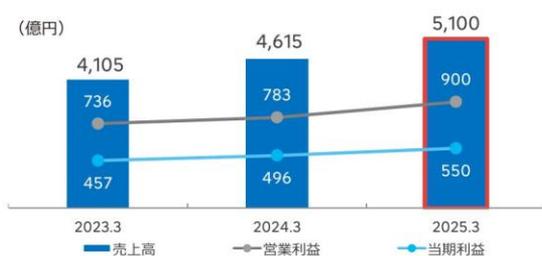
ここでは直近のニュースリリース・トピックスを掲載しておりますのでご参照ください。

2025年3月期 業績予想 (2024年11月公表から変更なし)



(億円)	2025年3月期		2024年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	5,100	100.0%	4,615.1	100.0%	+10.5%
売上原価	2,360	46.3%	2,190.1	47.5%	+7.8%
販売費及び一般管理費	1,509	29.6%	1,337.9	29.0%	+12.9%
研究開発費	340	6.7%	314.0	6.8%	+8.3%
営業利益	900	17.6%	783.8	17.0%	+14.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	550	10.8%	496.3	10.8%	+10.8%

投資計画	設備投資 500億円	減価償却費 400億円
------	------------	-------------



	● 想定為替レート		● 為替感応度の概算値	
	通期想定 (2024年11月修正)	前期実績 (24年3月期)	売上 (年間)	営業利益 (年間)
1 USD	149.8円	144.6円	USD 8.0億円	1.4億円
1 EUR	162.0円	156.8円	EUR 5.5億円	1.0億円
1 CNY	20.8円	20.1円	CNY 57.5億円	42.1億円

27

最後に 27 ページをご覧ください。

連結通期業績予想です。11月に公表させていただいた通期業績予想からの変更はありません。売上高および営業利益ともに目標を達成見込みであります。為替動向や外部環境の変化を注視しながらも、通期業績達成に向けて各種施策を推進してまいります。

以上でご説明を終わります。